

質疑応答表

分担	質問（実施順）	回答			
		株式会社理究キッズ ①	株式会社明日香 ②	ル・アンジェ株式会社 ③	シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社 ④
加藤 委員長	管理運営の基本方針について	<p>自分の住む地域は、どのようなところか、どんな人がいるか等、子ども達が住む地域を好きになり、成長に繋がるような施設としたい。</p> <p>かまくらっ子おおふなでは、商店街でハロウィンイベントを実施し、練り歩きながらお店の人と交流を行った。地域住民と顔見知りになり、自分の住む環境について知るとても良い機会となった。</p> <p>学生に協力を仰ぎながら、毎年広町緑地を散歩するなど、鎌倉の自然豊かな環境を生かしたイベントを実施していきたい。</p>	<p>放課後かまくらっ子の基本理念である「出あう・つながる・ふるさとで自ら育つ」という中の「つながる」という部分に力を入れたい。</p> <p>保護者や地域等と出会い、それが多世代交流の場となり、安全・安心な居場所となるようにしたい。</p> <p>本部担当者も積極的に現場に出向き、地域の特性を学び、イベントやコミュニケーション等の関わりの中で地域の活動に参加していきたい。</p>	<p>複合施設が、地域の中心として機能していくことに力を入れたい。小坂小学校にも近いため、子育て支援を必要としている世帯等にとって、一つの居場所となるようにしたい。</p> <p>また、子ども・保護者・地域との多世代交流ができる場としたい。かまくらっ子については、外に赴いての交流も行っていきたい。</p>	<p>放課後かまくらっ子は、乳幼児親子、小学生や中高生等が集える場と考える。高校生のボランティアなど、今回の支援センターとの複合施設をきっかけに集える場所であることを再アピールし、既存の放課後かまくらっ子施設も同じように、多世代交流ができる場所だとアピールしたい。</p>
	乳幼児親子の受入れについて	<p>安全面での取り扱いに気をつけたい。子どもは年上の子どもを見て成長するため、縦の連携を重視していきたい。安全面についてはマニュアルを整備している。</p> <p>1歳以下は親子交流となるため、親子で遊べるものを、幼児期になると小学生低学年の子どもと遊びができるようになるため、単体と一体の両面で提供していきたい。</p>	<p>乳幼児の親は、子どもがどのように成長し、どのように過ごすのか不安になるところである。センターを利用しながら、かまくらっ子があるという事を知ってもらい、就学後の利用促進にもつなげたい。</p> <p>保護者や子どもと接する中で、発信しなくてもできない声を職員が拾い、発信できるようにしたい。</p>	<p>支援センター利用した親や子どもが就学時に小1プロブレムをスムーズにクリアできるようにしていきたい。</p> <p>相談対応について、プレママやプレパパ等でサポート支援を実施していきたい。</p>	<p>子どもだけでなく、親も交流ができる環境づくりを行い、また、切れ目のない形でサポートを行いながら多世代が交流できる場としたい。</p>
玉置 委員	子育て支援センターの運営について	<p>施設内だけでは解決困難な問題に対しては、対応マニュアルを作成してあるため、どこに連絡する等、ケースごとに整理できている。</p> <p>1対1の対応が必要な子どもに対しては、臨床心理士のもと、年齢や子どもの特性にあった対応を行う。</p> <p>虐待が疑われる可能性があれば、チェックリストを用意し当てはまる場合は、青少年課、相談課等への相談も実施する。</p>	<p>運営開始前に関係機関との連携について、マニュアルや連絡先等を用意した上で運営していく。</p> <p>何かあった際は、職員間及び本部とも共有し、状況によっては市とも共有の上、関係機関と連携していく。</p>	<p>虐待について、児童虐待防止研修を年に1回実施している。</p> <p>気になる子どもについては、保護者の了承を得た上で発達支援や、放課後デイサービス等と連携しながら運営していく。</p> <p>市の担当課にも報告だけでなく、対応状況についても連絡しながら、一緒に問題解決していきたい。</p>	<p>様々な事情で来所が難しい家庭への対応は電話連絡で対応する。</p> <p>子育て相談窓口では、専門の職員が対応。直接対応、ZOOM、電話といったツールで対応する体制を整える。その場で解決できない時は、市を含め、専門機関と連携していく。</p>

	地域との連携について	コーディネーターは、現在、市の職員として務めている方を継続雇用していくことが理想であると考えている。	地域との関わりが深く、子ども達と楽しんでイベントができるという思いを持った人を採用する。 日々の生活の中で一緒に過ごしながら、子どもの様子を知り、「イベント実施」の部分特に強めていきたい。 運営開始前に各関係機関と連携し、マニュアル化した上で運営を行っていききたい。日々過ごす中で、生じた問題については職員間・本部で共有、精査し、状況によっては鎌倉市にも相談する等、連携を図りながら運営したい。	統括責任者が地域のコーディネーターの中心となって、「つながる」という点でイベントプログラムなどを実施しながら、地域との連携を行う。	地域のボランティア団体や OB の中学生等の活動はしているが、より活性化させていきたい。 多世代交流の場として、子どもだけでなく保護者も対象となる。そのためには職員のコミュニケーションスキルの向上が必要である。保護者をサポートしながら、切れ目ないサポートをしていく。 地域を愛してもらうために、地域の文化や自然に触れるような取組みをプログラムに取り入れたい。
宇高委員	危機管理体制	マニュアルについては、スタッフ初任者向け・施設管理者向け・衛星管理・事故防止・施設環境によるケーススタディ等に合わせて作成しており、それに合わせた訓練や研修がある。	運営開始前に必ず職員全員で研修を実施する。開始後も継続的に安全管理等独自の研修を行う。情報共有についても施設だけでなく会社全体で共有できるように関係づくりを行う。 1年毎に職員向けの安全管理研修・人権に関する研修を行っており、2カ月に一度、施設長の会議を実施している。研修を受けた職員は必ず施設で共有し、未受講の職員にも共有している。	安全衛生マニュアルについては、厚生労働省及び各都道府県の指針を会社独自にしたもの使用。 支援センターで運用する際は、各施設に合わせて上記内容を書き換え、施設に対して何ができるか、施設ごとにマニュアル化している。	行政への連絡については、営業所長及びスーパーバイザーへの連絡と同時進行で行う。緊急性の低いものは、本社で共有の上、フィードバックしたうえで現場に対応等の指示をしている。
	緊急時の対処法・新型コロナウイルス感染症対策・その他施設運営に係るリスク軽減について	緊急時の対処法として、月ごとにテーマを設けた研修を実施しており、10月は、嘔吐を伴う感染症対策についての研修を実施したところである。	日々情報は変わる。本部に衛生委員会があるので、日々、どの情報が正しいのか見極めながら、現場に情報を下ろして対応している。また、近隣の病院から得た情報等も共有しながら対応している。 施設利用にあたっては、利用者制限等を行い、密にならない運営に取り組んでいる。	現場から市に直接連絡した方が、迅速かつ正確に連絡入るかと思うが、東日本大震災の時にライフラインの混乱等が生じた経験から、あくまで現場から市に連絡することは大前提の上で、それ以外に現場から連絡がつかない場合において、本部から連絡を行う。 個別事案については、直接市へ連絡を行う。	現在、支援センター及び放課後かまくらっ子おさかの建物前に駐車スペースがあるが、現状はコーンを置いて車を止められないようにしている。そのため、小学校に用のある方が前面道路に路上駐車をしていることも見受けられる。道路が狭くなることによる危険も生じるため、行政、施設と相談しながら、安全性を確保した上で、駐車スペースの活用も検討していきたい。
大西委員	財務に関する質疑	売り上げの伸びは、各自治体から運営を任せてもらえる施設が増えているためである。 職員の体制も強化しながら、経験者採用等を実施し、運営を行っている。 直営から民間に切り替わる施設運営が多く、現場スタッフについては継続雇用を行っている。	売上原価については、細かい部分は経理担当に確認する必要があるが、人件費や福利厚生費が多く部分を占めている。	借入金は、令和3年度4月に、保育園1園を開設したときに借入れしたものである。	補足等追加説明は特になし。

松原副 委員長	スタッフの配置 について	<p>新任者の採用方針については、経験者と新任者のお互いの価値観を共有するよう努めている。また、可能な限り、地域人材を雇用するようにしている。</p> <p>施設ごとに状況が異なるため、施設ごとに計画を立て、若いスタッフを増やしたり、子育て経験豊富なスタッフを増やすようにしている。</p>	<p>現在勤務している職員は継続雇用する。</p> <p>令和2年3月までは鎌倉市の直営施設への派遣の実績があり、現在も100名ほどの派遣登録があり、その方々にも声掛けをしていき、放課後児童支援員を中心に勤務してもらおう。支援センターは、保育士メインだが、その他にも管理栄養士等相談業務に関係する資格あるスタッフを採用したい。</p>	<p>職員の確保については、現在7名の有資格者いるため、その者を配置予定としている。支援センターは、現在運営している保育園から3名配置する予定である。</p>	<p>現在勤務している職員については、継続雇用第一で考えている。仮に転籍希望がいなかったとしても社内の有資格者にて人員確保できる。</p> <p>直営から民間への転籍希望がない場合でも、社内異動も考えて配置する。</p> <p>新規採用については、近隣の受託施設で異動希望や提携大学からの紹介、ハローワーク等効率的な募集で採用に努める。</p>
	その他(一体的な運営に対する考え等)	<p>支援センターとかまくらっ子のイベントについては、ベビーサインと手話の講習ができればと考えている。支援センター利用者と小学生を交えることで共生社会を推進する狙いを持ちながら合同イベントを実施したい。</p> <p>また、親子の運動プログラムを実施したいと考えている。</p>	<p>支援センターとかまくらっ子のイベントについては、交流を基本とし、お祭りのようなイベントを実施していきたい。</p>	<p>支援センターとかまくらっ子のイベントについては、アフターコロナを考慮し、映画会やリトミック、運動等、大人を介さない子ども同士のふれあいを考えている。</p> <p>プレママ、プレパパのプログラム実施している。女性保育士だと「パパ」が恥ずかしそうにしているが、男性保育士であれば細かいところまで質問ができるため、男性保育士を派遣し、「パパ」の育児にも力をいれている。</p>	<p>かまくらっ子の子どもたちが考えたイベントを支援センターで実施する等、施設を通じて配信等の交流の起点となる場にしたい。</p> <p>支援センターの子どもと接することで子どもの触れ合いの場にして「命」というものを伝えられるような取り組みを行いたい。</p>